

令和4年度 都留市公立大学評価委員会第2回会議の審議要旨

◇評価を実施した期間

令和4年6月22日～8月19日

◇評価実施の経過

期 間

6月22日

法人から業務実績報告書の提出

6月29日～8月10日

都留市公立大学法人評価委員会

※新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ書面審議とした。

8月19日

評価書の確定

評価委員 原委員、村田委員、谷内委員、小俣委員、青山委員

令和3事業年度に係る業務の実績に関する評価委員会における結果について

評価概要

- ・令和4年度 都留市公立大学法人評価委員会第2回会議（書面審議）においては、令和3事業年度に係る業務の実績に関する評価結果書に基づき審議を行った。
- ・第3期中期計画の初年度計画であることから、計画のスタートアップに係る取組や、長期スパンにおいて今後発展していく事業等も評価を図っている。
- ・また、令和2事業年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い事業を中止したものと変更を余儀なくされたものについて全体評価を下げない方針をとっていたが、今年度については、新型コロナウイルス感染症の影響があり達成度に影響があった項目もあるが、今後の展望や正確に指標を図ることを考慮し、例年の評価基準を採用した。
- ・なお、評価基準全体については、昨年度の評価要領の改定に伴い、例年と比べ、地域貢献に係る事業等は各項目のウェイトを引き上げている。

評価結果

- ・法人より全体評価は、「A：中期計画の進捗は順調」と提示があり、審議の結果、各取組について一部遅れはあるものの、順調に推移しているものと判断し、評価報告書案に記載する全体評価について、法人の案を採用することとした。
- ・なお、一部委員より、評価基準の達成具合や、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、点数を引き上げることや、今回採点から該当項目を除外する等の措置が示されたが（後述）、今回の評価についてはスタートアップということもあり、また、コロナウイルス感染症への対策を講じて実現できている事業などもあることを鑑み、法人の提示する評価結果を採用することとしている。

公立大学法人都留文科大学の令和3年度に係る業務の実績に関する評価結果に対する評価委員からの意見・質問内容

※各委員の意見・質問及び法人の回答は別紙「会議資料2」に記載。

その他意見

○村田委員

以下の項目について、目標は未達であるが、新型コロナウイルス感染症の影響等不可抗力的な要素もあり、達成度の評価はもう少し高くてもよいのではないか。

・【令和3年度計画】大学附属図書館学習室・研究スペースの年間利用件数 1,500 件以上を目指す。

達成度：1

達成状況：新型コロナウイルス感染拡大防止のため学生の学習室の利用を不可としていたが、11月より、感染対策をしたうえで学生の学習室利用を再開した。3月末現在の学習室・研究スペース利用件数は431件であった。

・【令和3年度計画】インターンシップ希望者にオリエンテーションを行い、インターンシップの意義、注意点を周知し、参加学生数延べ50名以上を目指す。

達成度：1

達成状況：インターンシップのオリエンテーション、対策会を開催し、意義や注意点を確認した。事後指導として報告会を開催し自身の振り返りの機会とした。大学を通して手続きを行うインターンシップは、63名の申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、45名が受け入れ不可や中止となったため、参加学生数は、官公庁へ5名、民間企業へ10名、オンライン海外インターンシップに3名、合計18名であった。

・【令和3年度計画】大学附属図書館の館内利用や所蔵図書資料の貸出し・複写サービスなど、学外者利用人数500名以上を目指す。

達成度：1

達成状況：コロナ禍により学外者への開放は10月まで行わなかったため、利用者数は197名であった。コロナ禍の状況に応じた管内利用や貸出等サービスの検討を図る。

・【令和3年度計画】外国人留学生の生活・学習支援のためのチューターを募集し、24名以上を確保する。

達成度：1

達成状況：令和4年度受入交換留学生および新入学私費留学生にそれぞれ1名ずつチューターを募集し、12名を確保した。（通常期は留学生1名に対し2名募集）

○谷内委員

コロナの影響による低評価は(1)と表記し、全体の評価平均の算出に含めない方がよいのではないか。

○法人回答

今年度については、評価方法について大学独自で算出方法を変更することはできないため、コロナ禍の影響も含め算出している。

○村田委員

以下の内容について、見直しについて完了しているのであれば、達成度に対して加点をしてもよいのではないか。

【令和3年度計画】将来構想委員会において、カリキュラム改定にあわせ年間履修単位数を見直す。

達成度：3

達成状況：将来構想委員会（教務専門部会）で示されたガイドラインを基に、各学部学科において年間履修単位数を見直している。

○法人回答

評価基準では、他大学の模範となるような優れた効果、効用が発生したときを5としている。ご指摘の通り見直しは達成しているものの、さらなる発展にはつながっていないため、今回の評価基準を達成度としたい。